

< 日本の精神医療改革を考えるシリーズ⑥ >

五叉路会・講演会

< シンポジウム >

『第5の道を探る』

正解がわかっていながらたどりつけないもどかしさ！！
夜明けをたぐり寄せるために今なにを

< 出演者 >

今井友樹氏（映画「夜明け前」監督）・島本貞子氏（杉並家族会）
大久保真紀氏（朝日新聞）・萩崎千鶴氏（やどかり出版）・塚野明氏（市民）

五叉路会の講演会は昨年8月から5回開催しました。

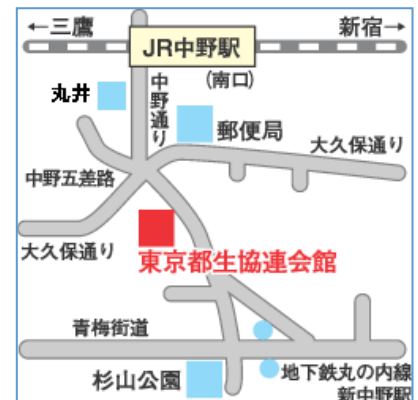
今回は、5人のシンポジストから、精神医療の現状と課題をどう考えるかを話して頂きます。

11月6日のベルギー精神医療改革講演会は300名参加、翌日のみんなねっと全国大会（ベルギーのパナード氏講演）は1,800名の参加。映画「夜明け前」の上映回数は500回突破など、精神医療を考える新たな機運が高まっています。

精神医療の現状を打開するため、私達は何をすべきか、具体的取り組みを意見交換する予定です。

是非、周りにも参加を呼びかけ下さい。

- 日時：2019年12月13日（金）
18時30分～（受付開始18時～）
- 場所：東京都生協連会館3階会議室
（中野駅南口徒歩10分）
- 参加費 1,000円
- 定員 100名



主催 五叉路会（代表者 代々木病院医師・中澤正夫）
問い合わせ先 氏家憲章（080-2251-8780）

《 申し込み用紙 》 Fax 03(5385)2299 きょうされん迄

氏名	
所属	
連絡先	電話 E-mail

《裏面に11月6日に行なった「共同創造の精神医療改革」講演会参加者アンケート一部抜粋》

< 11月6日の「共同創造の精神医療改革」ベルギー精神医療改革講演会 >

☆ 参加者アンケートの一部抜粋 ☆

- 当事者、家族（主体であることをもっと伝えていきたい）のニーズを日々の支援の中でもしっかりと把握していくことは必要。コミュニケーションをしっかりとすることは、同じチーム内、他機関、……しっかりと考えを伝え合っていきたい
- 当事者・家族の声が基本。コミュニケーションが大切。少しずつ、暴力的な発想でなく（医師や病院に対しても）進めること、を何度も言われていた。これはベルギーには大切であったのだと思う。日本の風土でもこれを活かせるケースと難しいケースがあることを区別して私たちの工夫をイノベーションとすることはいけないのでは？と。
- ベルギーでのとりくみがイメージできる講演でした。イメージできるだけに、すぐ当たり前と感ずるところとその当たり前がとても遠いところにあると感ずる所とても不思議な感じがします。日本において、当たり前がないがしろにされている社会がまだあるからだと思います。それを私は知っているから自分の中で折り合いのつかない感情があるからとだと、講演を伺いながら考えてしまいました
- 行政が決めてトップダウン的に政策を行うのではなく、非指示的方法で話し合いを重ね地域や自治体が自覚的に改革を行なっていく姿勢が重要だと思いました。日本ではよく当事者不在のまま政治家や役人の方が施策を決めてそれが市民におろされるというイメージなので、そこを変えていかないとベルギーのような改革は難しいと感じました
- 病院に対する収益補償をした上で人的資源の地域移行を行なった流れがよく分かりました。
- 従来の考え方を換え、今まで停滞してきた精神医療に一つずつ積み重ねて改革をしていき成功している。ただ日本がこれらを踏まえて改革できるかは難しいことだと思う
- ベルギーが他の国を見て学んだように、私もこれから働く者としてよりよくするために他の国の政策や日本の政策をみて学んで自分の力にしたいです。また（精神）疾患を見るのではなく、その人自身を見るということは日常生活でも、実習などの時でも活かそうと思いました
- 当事者、家族中心にすることが日本はまだ欠けているので、支援者の意識改革が大切
- 当事者・家族の声が基本、コミュニケーションが大切、少しずつ、暴力的な発想でなく（医師や病院に対しても）すすめることを何度も言われていた、これはベルギーには大切であったのだと思いました。日本の風土でもこれを活かせるケースと難しいケースがあることを区別して私たちの工夫をイノベーションとすることはいけないのでは、？と
- 病院や施設を充実させることを考えるのではなく、当事者や家族が今ある環境で暮らしやすいように政策を変えていくことはもっと日本も行なっていくべきだと思いました
- 日本でも心ある医師の方々がよくまた病院もあります。しかし、国としての大きな改革は貧弱なようできてとても頑強な政権により阻まれている気がします。ひとりの大臣が動いて他が動いてくれる様なことが日本にでもおきたなら。
- とてもいい講演でした。この講演が良かったのではなく、日本でどのような活動ができるか、どう変化させるかが、重要であると思います。
- 当事者のニーズを医療政策に反映させるには患者も勉強し手、情報発信し影響力をもつことが必要。障害を持っている人の政治参加も今後もっと進んでいくように望みます。